

地 域 再 生 計 画

1. 地域再生計画の申請主体の名称

宮崎市

2. 地域再生計画の名称

みやざき太陽都市構想

(中心市街地活性化プロジェクト)

3. 地域再生の取り組みを進めようとする期間

平成17年度～平成22年度

4. 地域再生の意義及び目標

古代日本の神話と伝説に富む宮崎市は、昭和40年「日本のふるさと観光文化都市」を宣言し、「古くて新しい宮崎」にふさわしい特殊性を生かした近代的な都市として、また調和のとれた住みよいまちとして、発展を目指している。

また、本市は「太陽と緑の国」のイメージで知られる宮崎県の中心として、南北30kmにわたる海岸線を有し、太平洋に沿って流れる黒潮によって温暖な気候風土に恵まれ、亜熱帯植物の繁茂する青島をはじめとする国定公園日南海岸に連なる風光は、まさに南国的色彩に富み、本市を訪れる観光客は年間5百万人を数える。この温暖な気候を利用し、本市を中心にプロ野球やサッカーのリーグの複数のチームが春季キャンプを行うなど、プロスポーツ・アマチュアスポーツの全国有数キャンプ地として知られている。

このようななか、本市における中心市街地は、県庁所在地である中核市宮崎の中心であり、大型店舗や映画館など商業・娯楽施設が集中し、県内全域を集客範囲とする中心商業地域である。また、鉄道やバスのターミナル機能をそなえるとともに、空港連絡鉄道による空路へのアクセスも容易なJR宮崎駅を擁し、近距離から遠距離までカバーする交通の要衝の地であり、さらに大淀川周辺は国際観光リゾート都市の一角を担い、観光宿泊施設が集中する地域となっている。まさに本市のシンボリック役割を担った「躍動する太陽都市・・・みやざき・・・」の顔となっている。

一方、近年のモータリゼーションの急速な進展とそれに伴う大型店の郊外立地、中心部での人口減少と高齢化などを背景に、中心市街地の衰退・空洞化という問題が深刻化している。

また、全国的にも高齢化の急速な進行や人口減少と、それに伴う経済力の減退等が懸念されているなか、本市においても2015年をピークに人口が減少に転じると予測されており、将来の競争力維持が喫緊の課題となっている。

これまで進めてきたまちづくりの施策においても、一定の成果を収めてきたところではあるが、市街地の空洞化は依然進行しており、市町村合併を目前に控え、次世代に引き継ぐ豊かで競争力のある都市形成を目指すためには、地方中核都市に相応しい「個性」を創出し、中心市街地の再生を図ることが急務となっている。

本市では、平成10年に「宮崎市中心市街地活性化基本計画（平成12年3月一部変更）」を策定し、「いろいろな人が様々な目的（＝夢）をもって中心市街地を訪れ、思い思いの時間を過ごすことができる（＝育む）みんなにとって必要不可欠な場所として有り続ける」すなわち、**「夢を育むみんなの街」**をコンセプトに各施策を進めて来た。

既に公共交通の要衝であり商業・業務施設や公共公益機能が相当程度集積していることに加え、本市の文化、交流、情報、経済等の拠点としての役割を担ってきた中心市街地を、本地域再生計画に基づき、総合的かつ一体的に再生することは、投資効率の観点から、また波及効果の観点から最も効果的であるばかりでなく、将来の本市の競争力維持にとって最も有効な手段の一つである。

このため、本計画では「将来の宮崎市の競争力向上」を目的とし、都市の競争力を生む主要な要素である「都市の魅力向上」のため、商業施設の充実・公共施設の再配置・交通基盤の整備・市民参加による美しい景観のまちづくりを進め、「安全・安心なまちづくり」「交流・居住環境の向上」を図るとともに、橘通りを中心とした中心市街地の公園化を実現し、魅力的で求心力のある中心市街地の形成により、市全体の地域再生を目指すものである。

【都市機能の充実・高質化と中心商業機能の充実】

本市では、宮崎市及び中心市街地の歴史・文化・伝統・気候・風土等の地域特性を活かし、行政と事業者や市民等が一体となった中心市街地活性化の取り組みを進めるため、「宮崎市中心市街地活性化基本計画」を策定した。この基本計画に基づき、中心市街地を3つのゾーン（橘通地区、JR宮崎駅周辺、大淀川周辺）に分け、まちづくり交付金を活用することにより、それぞれの特性に応じた都市機能・商業機能の充実を図る。

また、民間と協働するソフト事業の展開を図る。

・橘通り地区

県下随一を誇る高度商業集積地である当ゾーンでは、土地の高度利用を図り、中心商業機能の魅力向上と公共公益機能の集積を図るため、市街地再開発事業を促進するとともに、来街者が来やすい交通環境や快適に過ごせる環境を整える。

また、NPOや市民と協働してオープンカフェを設置するなど、既存の社会資本の有効活用について、社会実験を行う。

現在、民間団体が橘通りで植栽・緑化活動を行っており、「太陽と緑と大地のガーデンシティみやざき」にふさわしいまちづくりを進めている。これらの緑化活動により中心市街地の3つのゾーン（橘通地区、JR宮崎駅周辺、大淀川周辺）を緑の回廊で有機的に結び、地域内での人の交流を促進するとともに、将来的には橘通りそのものの公園化を目指している。本市としても、これら地域の取組みを支援し官民一体となった緑化事業を推進す

るとともに、景観形成の施策を総合的に進めることで、国際レベルの都市景観の形成を図っていく。

また、橘通3丁目とその周辺に再開発事業による公共機能を備えた複合ビルや立体駐車場を整備し、核施設の公共機能(各種イベント等)と商業施設の高度化、来街アクセスの向上による集客を図っていく。さらに、市役所周辺(橘通り1丁目)の公共施設との連携することで、中心市街地区域内での交流促進を図る。

これらの施策とともに、橘通り2丁目に設置しているふるさと物産館「海幸・山幸」の機能強化、タウンマネジメント機関(TMO)を通じた民間のまちづくり活動、商業地におけるキッズカフェの展開、商店街と橘公園をイルミネーションで飾る光のファンタジー事業など、既存・新規の事業を様々な組み合わせ、各事業の連携・強化を図ることで地域再生計画を有効に進める。

・JR宮崎駅周辺

JR宮崎駅は鉄道輸送の中心であるのはもとより、地方都市では唯一、宮崎空港への連絡鉄道を持つことから空路利用の利便性も高く、宮崎県の玄関口としての機能を担っており、周辺には宮崎市保健所・宮崎科学技術館、宮崎市中心公民館・総合体育館など公共施設も多く配置されている。

現在のJR宮崎駅とその周辺は、バスとの交通結節機能が脆弱で駅構内のバリアフリーも充分ではない。このため、「宮崎市移動円滑化基本構想」に基づき、エレベーターの設置などバリアフリー化工事を行い、観光客や交通弱者が利用しやすい交通結節点の整備を図る。

将来的には、JR宮崎駅と一体的にバス利用が図れる、総合交通機能を整備するとともに、近隣商店街の活性化策も取り入れていく。

・大淀川周辺

大淀川周辺は、ホテル・旅館が建ち並ぶ宮崎観光宿泊の拠点であり、温泉を活用した宿泊施設の魅力向上や、公園・街路など公共施設の良い景観形成に努める。大淀川周辺の橘公園から橘通りへと続く街並みを、統一感のある景観とし、人々が憩いながら散歩できる環境の創出を目指す。

また、橘通り地区とともに、道路や河川などを活用したイベント等を活性化し、観光客の増加を目指す。

5. 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

中心市街地における休日通行量(調査点20ヶ所の合計)

	H15年度	92,189 人	→	H22年度	130,000 人
宿泊客数	H14年度	2,386 千人	→	H22年度	2,600 千人
小売業年間販売額	H14年度	3,690 億円	→	H22年度	5,000 億円

6. 講じようとする支援措置の番号及び名称

212028	まちづくり交付金の創設
201001	映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化
212002	道路占用許可の弾力化(オープンカフェ等)

7. 構造改革特区の規制の特例措置等により実施する取組その他の関連する事業

該当なし

8. その他の地域再生計画の実施に関し、地方公共団体が必要と認める事業

なし

別紙(1)

1. 支援措置の番号及び名称

【212028】 まちづくり交付金の創設

2. 当該措置を受けようとする者

宮 崎 市

3. 当該措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組みの内容

中心市街地の活性化

実施主体:宮崎市

実施場所:宮崎市中心市街地地区

実施期間:平成18年度～平成22年度(平成17年度申請予定)

実施内容:まちづくり交付金の活用を検討し、宮崎の

風土を活かした総合的・一体的なまちづくりを行うことにより中心市街地の活性化を促進し、
ひいては宮崎市の魅力向上を図る。

【基本目標】

中心商業機能の充実

都市機能の充実・高質化

快適、便利な居住環境の形成

活力を支える交通体系の形成

【主要事業】

中心市街地の緑化事業

宮崎市中心市街地地区では温暖な気候を利用し、橘通り(一般国道 220 号)及び周辺の細街路を緑化することにより中心市街地の魅力を高め、3つのゾーン(橘通り地区、JR宮崎駅周辺、大淀川周辺)を緑の回廊で有機的に結ぶことを目標に、現在、地元商店街を中心に花を活かしたまちづくりのワークショップを開催(9月17日現在10回開催、延べ人数210人)し、まちの景観のあり方等について協議を行うとともに、実証実験を通して花の管理体制やボランティアの募集方法等を検討している。

そこで、これら地域の取組みを支援し官民一体となった緑化事業を推進することにより、良好な都市景観の形成を図り、中心市街地の賑わいを創出する。

(想定される事業)

- ・ 橘通り周辺緑化推進事業(地域創造支援事業)

- ・ 中心市街地緑化支援事業(地域創造支援事業) など

市街地再開発事業

宮崎市中心市街地の新しい「顔」となるべく、老朽化した店舗を共同化し再整備するため、現在、権利者等により市街地再開発事業の検討を進めている。

計画では核テナントの誘致に加え、保留床の一部を宮崎市が取得し、公共公益機能の集積や広場など市民の憩いの場を整備することにより、生活・交流の拠点として整備するもので、平成20年の完成を目指している。

まちづくり交付金を活用し市街地再開発事業を促進することにより、中心市街地の魅力向上、都市機能の高度化を図り、地域の交流空間を創出する。

(想定される事業)

- ・ 市街地再開発事業(基幹事業)
- ・ 高次都市施設(地域交流センター)(基幹事業) など

都心居住の促進

中心市街地の居住人口を増やし、地域コミュニティの回復を図ることは、市街地の商業振興に効果があるばかりでなく、自治防災組織の結成など安全性の向上にも効果がある。このため、地区外から地区内に転入する入居者に家賃助成を行うことを検討するとともに、地区内に建設される共同住宅に対し建設費の助成を行うことを検討し、中心市街地の人口増加を誘導する。また、地区内の準幹線道路の整備や歩行空間の整備により居住環境の改善を図る。

(想定される事業)

- ・ まちなか居住促進事業(地域創造支援事業)
- ・ 道路(基幹事業) など

駐車場・駐輪場及び周辺道路整備事業

中心市街地における自動車利用者の利便性の向上を図るため、民間事業者と共同で駐車場の整備を進めるとともに、まちなかの美観や安全性を向上させ、来街者が快適に回遊できる環境を整えるため、駐輪場整備による放置自転車対策やバリアフリーに配慮した歩道整備を検討する。

(想定される事業)

- ・ 地域生活基盤施設(自転車駐車場)(基幹事業)
- ・ 高質空間形成施設(基幹事業)
- ・ 宮崎駅バリアフリー化事業(地域創造支援事業) など

社会実験の実施

通過交通の排除、公共交通機関の利便性の向上などを通じて、中心市街地への必要以上の自動車交通の流入を抑えることや、違法駐車対策、TDM施策によ

る交通渋滞の解消など、社会実験を実施して検証するとともに、既存の社会資本ストックを有効に活用し、まちの賑わい再生に資するイベント等の継続的な実施に向け、道路空間の利用可能性等についてオープンカフェなどの社会実験を通して検討する。

(想定される事業)

- ・ 社会実験の実施(地域創造支援事業)

別紙(2)

1. 支援措置の番号及び名称

【201001】 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化

2. 当該措置を受けようとする者

下記イベント主催者

3. 当該措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

宮崎市中心市街地においては、下記のような“まつり”“イベント”が実施されており、市も支援を行っているところである。

このため、平成16年3月に発出された通達に基づき、各イベントの魅力向上、市民協働体制の確立を図り、まちなかの賑わいを創出する。

〔開催イベント〕

行事名	主催者
まつり えれこっちゃみやざき	えれこっちゃみやざき振興会
みやざき夏の夜まつり	みやざき夏の夜まつり実行委員会
宮崎神宮大祭	宮崎商工会議所

別紙(3)

1. 支援措置の番号及び名称

【212002】 道路占用許可の弾力化(オープンカフェ等)

2. 当該措置を受けようとする者

商店街団体

3. 当該措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

橘通地区では、民間の「橘通フラワーロード推進委員会」による植栽運動が進められるなど、官民一体となった景観形成活動が活発化している。

また、大淀川周辺では、ロードパークである橘公園が河畔沿いに整備され、周辺にはホテル・旅館街が形成され、定期的なイベントも実施されている。

これらの優れた施設・環境といった地域資産を活用し、交流人口の増加による地域経済の活性化を図るため、平成16年度に発出された通知に基づきオープンカフェなど民間事業者の創意工夫による事業展開を図る。

〔道路占用関連事業等〕

- ・光のファンタジー事業
- ・サンデーマーケット